

令和 7 (2025) 年 1 1 月 6 日
 総 合 教 育 会 議
 教育総務課・学校教育課

第 1 回統合説明会〔令和 7 (2025) 年 5 月 3 1 日〕 概要報告

- 1 日 時 令和 7 (2025) 年 5 月 3 1 日 (土) 午後 7 時～午後 8 時 3 0 分
- 2 会 場 北条小学校 2 階交流 (北条) ホール
- 3 出席者
 - (1) 参加者 1 6 名
 - (2) 事務局 6 名 田中教育部長、細山教育総務課長、山之内学校教育課長、
種岡学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、
茨城教育総務課係長
 - (3) 報道 3 名 朝日新聞、新潟日報、柏崎日報
- 4 会議概要 進行 布施課長代理
 - (1) 開会あいさつ 田中教育部長
 - (2) 概要説明 細山教育総務課長
 - ア 北条中学校と東中学校の統合について
 - イ 東中学校・第五中学校統合準備委員会への参加について
 - (3) 質疑、意見交換 下記のとおり

発 言 者	発 言 概 要
-------	---------

- | | |
|--------|---|
| 保護者 | 説明会は初めて参加したが、もう統合するということで話が進んでいると感じる。これまでもこのような説明会はあったのか。
また、スクールバスについて、部活動等もあるが、下校は一本だけということか。 |
| 布施課長代理 | 昨年 1 2 月 1 9 日に学区再編方針の説明会を実施し、その後より多くの保護者に伝えるため、2 月中旬に北条中 P T A 評議員会で統合検討基準を説明させていただいている。また、2 月下旬には北条小 P T A 総会があったので、その場で 1 2 月の説明と同様に学区再編方針の説明を行った。 |
| 細山課長 | スクールバスについては、ご指摘のとおり部活動等があるため、下校は 2 便ないし 3 便用意する。部活動をしていない生徒は 1 便、している生徒は 2 便という形で配慮したい。 |
| 保護者 | 統合年度について、以前の説明では令和 1 0 (2 0 2 8) 年度とのことだったが、生徒数の見込みが予想を下回ったことから令和 9 (2 0 2 7) 年度に早まったと理解してよいか。 |

- 細山課長 : 今日直近の数字で令和9（2027）年度に40人を下回ることについて現状の情報共有をさせていただいた。今日はこれまでどおり令和10（2028）年度での統合という形で話をさせてもらうが、一方で、直近の生徒数の見込みがこのような形で出ているため、改めて6月の説明会で統合時期については皆様の御意見をいただきたい。その際には、教育委員会としての統合時期についての考え方をお示しした上で、御意見をいただきたいと考えている。
- 地域住民 : P T Aに説明を行ったとのことだが、どのような意見が出たのか。
- 布施課長代理 : 結果的にはどちらも保護者から質問はなかった。中学校の方は時間もあつたので質問・意見等何度も促したが、特に出なかった。小学校の方はP T A総会もあつたため、あまり時間は取れなかったが、質問はなかった。
- 地域住民 : 質問がなかったということは、もう「承知した」という理解でよいのか。
- 細山課長 : 結果的に質問がなかったというのは事実だが、最終的な判断の意思確認をどういう形でやるかという点は、改めて検討させてもらいたい。
- 地域住民 : とうとう来たかという思いだ。人数が段々と少なくなってきており、やむを得ないと感じる。
- 今年の小学6年生から進学の際に中学校を選べると聞いた。北条中と東中で選べるという話だが、それは事実か。
- また、何か大きな決定があれば、子ども達が不安に思うことのないよう地域として支えていきたいと思う。
- 山之内課長 : 地域として支えるという言葉、大変感謝する。中学校の選択については、昨年の9月に、学区再編方針の改訂に伴う付随事項の指針設定として、「複式学級に在籍または在籍予定の児童生徒、統合検討対象または、対象となる可能性の高い少人数校に在籍または、入学予定の児童生徒が人数の多い学校への就学を希望する場合は、学区外就学申請書の提出を認める。なお、スクールバス等の通学支援は行わない。」とした。つまり、統合対象又は検討可能性が高い小さな学校から大きな学校へに行くことも認めるというものである。ただし、その場合は保護者の送迎となる。
- 地域住民 : それでは今回の北条に限らず、小さい学校から大きい学校へ行けるということか。
- 山之内課長 : 複式学級や統合検討対象などであれば、そうなる。これはどこの学区でも同じ扱いである。
- 地域住民 : スクールバスについて、細部はこれから検討するとのことだが、自宅からバス停までが遠いと心配である。大角間集落でいうと現在杉平のバス停まで頑張って通っているが、民家もなく、防犯上も懸念がある。岩之入集落も同様だが、バス停からかなり入ったところの集落もあり、そういったところにも配慮してもらいたい。バス停まで遠いところでどれくらい歩いているのか、他の地域でも良いので、把握しているか。

- 茨城県長 : 現状では他の地区のバス停から遠い世帯で 500m～700mほどである。北条地区については、現在越後交通の路線バスを利用しており、杉平発となっていることから大角間から出てきていただいている。その点、統合となれば路線バスではなくスクールバスを運行させることになるため、杉平発という縛りがなくなり、大角間発とすることも可能となる。路線バスのような制限がないので、なるべく自宅に近いところを乗降場所とできるよう対応したい。
- 地域住民 : 小学生はどうなるのか。
- 茨城県長 : 小学生は現在未定である。中学生が路線バスではなくスクールバスとなることで越後交通の現路線にどのような影響があるか、場合によっては協議が必要な点も出てくる。ただし、その結果として児童に不便を掛けることがないように対応していきたい。
- 保護者 : 今 6 年生で、統合が令和 10（2028）年の予定だと中学校 3 年生となり、受験の年となる。それが令和 9（2027）年になるとその 1 年で子どもの成長が違いため、今の 6 年生の保護者 11 名がどのくらい先を見通しているか分からないが、早めに予定を立ててもらえると先のことを考えやすい。6 月の段階で決まっていないというのは、6 年生保護者としては悩ましい。子どもにとっても不安要素となり、早めに東中学校に行こうと考える方も半数くらいいるかもしれない。学校の行事や雰囲気などにも影響がある。そういった点からも、統合時期を早めに示してもらえれば、こちらの考えもまとまるのでありがたい。
- 細山課長 : 不安はもっともだと理解している。今日示した直近の数字を基に、6 月下旬に教育委員会の考え方を示した上で、皆様の判断を仰ぎたいと考えている。
- 地域住民 : 6 月下旬の説明会をもって、統合の判断を行うということか。また、その判断はどのように行うつもりなのか。
- 細山課長 : その説明会をもって判断するつもりはない。説明会を実施した上で、北条地区の皆様の意思確認については、アンケート等の手法により行っていききたい。
- 地域住民 : 東中と五中の次回の統合準備委員会はいつの予定か。
- 細山課長 : 6 月 19 日を予定している。
- 地域住民 : 月に 1 回のペースのようだが、個人的には北条中も早めに話し合いに参加させてもらった方が良いと思う。
- 先ほどの話だと 6 月下旬に説明会があり、そこからアンケート等を行い、統合準備委員会に参加できるのは早くても 9 月以降となる。それまで時間が経ってしまうと話し合いが先に進んでしまうのではないかと。
- 細山課長 : そこは切り分けて考えさせてもらいたい。統合の確定及びその時期については、ご指摘のとおりアンケート等により、意思の確認をさせてもらいたい。統合準備委員会への参加については、統合時期に関わらず早めに北条地域からも加わってもらいたい。

北条地域の皆様からも統合準備委員会に早めに入ろうという話が出れば、東中学校と第五中学校の統合準備委員会にも情報を共有させてもらい、場合によっては一旦休会とし、北条地域から委員の推薦をいただいた上で改めて開催することも考えている。

地域住民 : 跡地利活用について、第五中学校は教育センターが入るという話だったが、それは地域の要望を聞いての結果か、それともこの検討とは別のところで決まった話か。というのも北条小、北条中、コミュニティセンターは避難所としても指定されているが、中学校が使えないとなった場合にどう避難所を確保するのか。そういった検討はどう進めていくのか。

細山課長 : 他の統合をお願いしている学校についても、実際地域の皆さんと情報交換させていただきながら、避難所や避難所以外の利活用ができるのか、地域の皆様と意見交換をさせていただいている。北条地域においてもそういう形をとらせていただこうと考えている。今現在で具体的なものは、決まっていない。

地域住民 : 五中に教育センターを持っていくというのは、地域の皆さんもそういう活用方法で良いという話になっているのか。

細山課長 : まだそういう状況ではなく、教育センターということで決定したわけではない。

地域住民 : 資料には決まったように書かれているが、そうではないのか。

細山課長 : 優先して検討してはいるが、まだ決定してはいない。

保護者 : 今日来てみて、保護者の少なさに驚いた。今日地元で草刈りがあり、同じ小学校の保護者に今日来るか尋ねたところ「何が？」と言われてしまった。自分自身もそうだが、これまでの説明会のことは聞いてはいたが、広報や案内を見たり見なかったりだった。中々周知が難しいのは分かるが、先ほど言われたように何か意見はあるかと促されても意見が出ない、これは普通のことだと思う。言いたくても言えない、来ても発言できないという保護者が8割以上ではないかと思うので、先ほどアンケートという話があったが、そうやって意見を集めた上で吟味してもらえると良いと思う。

細山課長 : 今の意見を参考に、どのように北条地域の意思を確認していくか検討したい。

地域住民 : 統合準備委員会について、具体的にどのようなことを検討していくのか。地区代表、保護者2名ずつということだが、この4名に判断させるということか。具体的にこの4名はどのような役割なのか。

布施課長代理 : 昨年、1年間開催し、校名が変わった剣野小、鯨波小、米山小が西小学校になり、あと、日吉小と中通小が桜通小に決まったところだが、統合準備委員会において、全体会というものがあり、校名・校歌・校章をそれぞれの地域の方から決めていただいた。

校名をどうするかについて、委員の意見ももちろんあるが、一旦持ち帰り、

P T Aであればアンケートをとったところもある。町内会の代表については、それぞれの町内会に聞いた上でそれを意見集約し、それを持ち寄った上で、会議でお話いただいたところもあった。

地域住民 : 委員会ではどのようなことをするのか、もう少し教えて欲しい。

細山課長 : 校名から始まり、P T Aの会則や後援会の組織をどうするか、スクールバスをどういうふうにしていくのかなど、統合によって、変わるものを、一通り代表の方から議論をしていただく。そこで答えられない場合は、持ち帰っていただき、地域の声を吸い上げながら、毎月1回の委員会でお話いただくという形をとらせていただいている。

地域の代表は、コミセンから推薦いただいているのが地域の事例であり、P T Aの方は、P T Aの組織から2名推薦をいただくという形をとらせていただいている。

布施課長代理 : ここでいうP T Aは、中学校の統合の話なので、北条中学校のP T Aを代表する方に担っていただくようお願いしている。

地域住民 : 3年生保護者のP T A会長などは子どもが卒業しても継続して委員を続けるのか。

細山課長 : それぞれの地域で違うが、代表の方が子どもの卒業によって変わるということであれば、改めてご推薦いただくような形になる。それはまた準備委員会の中で臨機応変に対応する。

地域住民 : 選出の時点である程度年数見込むのであれば、継続して参加しないと話が分からないと思うので、統合時に中学校に入る又は統合のときに中学校に在学する保護者に関わってもらったほうが良いと思うので、そこを伝えた上で選出してもらう方がよい。

細山課長 : 御意見を踏まえて、推薦を依頼する際にはそういった点も追記したい。他の地域では、P T A会長と1年生代表という形で推薦いただいている例もある。いずれにしても、5月15日に始まった東中学校と第五中学校の準備委員会に北条地域からも加わっていただきたいと考えている。御了承いただければ、地域、P T Aの皆様に推薦の御相談をさせていただきたい。

地域住民 : 剣野小の校名が変わったとのことだが、今回の統合も準備委員会の中で校名変更という話が出た場合にはそうなる可能性もあると考えて良いか。委員会で決まったのか、経緯などを教えてほしい。

細山課長 : 校名の変更については、委員会の中で決まったものである。

地域住民 : 確か南中学校にも何年後かに鏡が沖中学校との統合の計画があったはず。そうすると東西南北で東だけ残ることになるので、東以外にする方法もあるのかなと思う。校名変更も考えても良いのでは。

北条中学校は地域の愛着を高めるという目的で地域学習に取り組んでいる。東中と統合になれば、校区が大幅に広がることになるが、地域学習が東中学校でも反映されるのか。どのように関わっていくのか、どのような形で

進めていくつもりか。

地域住民 : 行事や交流として、植樹地の年2回の草刈りや北条地区の体育祭やコミセン祭りなど中学生なしでは成り立たなくなっている。我々としては北条地区の文化を残していきたいと考えているので、統合となっても残すよう検討していただきたい。

細山課長 : 地域との連携、歴史文化の継承、学校の特色については、統合準備委員会の中でそれぞれ持ち寄ってどういう形で活かしていくかという点は検討し、配慮していきたい。

地域住民 : 第五中学校の生徒数の推移はどうだったのか。

種岡主幹 : 昨年度は28名で、一昨年度は30名であった。

地域住民 : 総合学習など北条中には北条中のカラーがある。統合時期が令和10(2028)年になるか令和9(2027)年になるか分からないが、あと数年で固められるのか。

山之内課長 : 確かに北条地区は本当に小学校と中学校、総合学習、探求的な学びに非常に力入れており、新聞などにも紹介されているところである。

先ほどの質問で統合により地域の文化がなくなるのではということだったが、高柳中学校が第五中学校に統合されたときに、狐の夜祭という祭りに五中を生徒みんなで参加し、高柳地区だけではなく、五中の生徒が参加したという事例があり、逆に祭りが盛り上がったということもある。

統合準備委員会の中でそういう各地域の、教育資源を出し合いながら、教育課程を考えていく。校長がオブザーバーとして参加するので、各地域の歴史、文化、自然といった良さを集め、総合学習も充実するのではないかなと思う。

カリキュラムについては、1年掛ければ十分できる。統合した後も、さらにブラッシュアップして、改善することも可能である。その辺は、地域と一緒に作りながら、良いものができると考えている。

地域住民 : 東中と五中の統合確定ははっきりしているが、北条中については、保留されていたはずである。それを昨年12月から一気にやろうという動きがあるが、それが保護者に伝わっているのかという懸念がある。また、質問をしづらいという面もあったかもしれない。そういう意味でも丁寧に接していくほうが良いだろう。

また、在籍数を確保するために国内留学のようなことを考えはしないのか。

山之内課長 : 他所から移住してこられる方もいるし、校区内で条件に合えば学区外就学という形もあり得る。また、もし北条小学校が特認校ということになれば、希望して来ることができるので、そういう制度を今考え始めている状況である。

地域住民 : 要望になるが、やはり子供たち同士が一緒になって学校生活を送るには、それなりに子供たちの中でもストレスがあるだろう。それを解消するため、

統合の前段階で、できるだけその生徒同士の交流を数多く設定してスムーズな統合になるように進めてもらいたい。

細山課長 : 先行して統合準備を進めている剣野小、鯨波小及び米山小については、令和8年4月統合予定だが、今年度既に交流の場を複数回設けると学校から聞いている。加えて、PTAも統合前にPTA有志の交流会を計画している。北条地域についてもそのように進めていきたい。

地域住民 : 南条地域としては、五中の方が近いこともあり、統合が避けられないのであれば、話し合いも3校で進めていければ効率化も図れるし、無駄なく色々なことができるかと思う。

先ほどからの話では「だらう話」が多いように感じる。状況的に人数が少なくなっているのであれば、そこをしっかりと説明して教育委員会としての方針を出した方が良いのではないか。

もし五中が令和9（2027）年に統合して、北条中がその1年後に統合すると、生徒たちが仲間に入っていけないのではないか。そういう色々なことを考えて進めてもらいたい。

細山課長 : 教育委員会として、統合とその時期を6月下旬に方針を示させてもらいたい。また、今お話しがあったとおり3校で議論することのメリットもあるため、統合の時期とは別に先行して統合準備委員会に加わってもらいたいので、皆様からご推薦いただきたいと考えている。

地域住民 : どういう検討を進めていくか、資料から見えない。全体がよく分からないまま説明を聞いている形なので、どのように進めて、いつまでに何をするかが分かるようにしてほしい。

また、今回の説明会も回覧板での周知だったが、保護者は回覧を見ないことも多い。周知の仕方を工夫し、今日何をするか分からないというようなことがないようにしてもらいたい。

細山課長 : 資料については、今後イメージが掴めるようなものにしていく。また、周知については、本日は保護者への周知は学校経由で、地域への周知は回覧版で行った。どのような形で周知するのが一番良いのか今後検討していきたい。

地域住民 : 授業参観に行くことがあるが、とても和気あいあいとしている。その子どもたちが統合によりバラバラになり、大人数の中に2、3人ずつとか入ったときに仲良くできるか、そういったサポートも考えてもらいたい。

田中教育部長 : 本日は本当にたくさんの意見、話を聞かせていただいた。保護者の子どもの将来の心配、地域の文化がどうなるか、本当に貴重な意見を頂戴した。また、最後に教育委員会としての方針をしっかりと出さないといけないとのお話については、6月にお示ししたい。

集まった人だけで決めるのかという点は、アンケート等方法を検討し、統合を良い形で進めていければと考えているので、御理解いただきたい。

以上